

閉会中の調査報告

産業経済常任委員会

日 時	平成 30 年 7 月 6 日（金）午前 11 時 20 分～午後 12 時 18 分
場 所	湖南省役所東庁舎 4 階 第 3 委員会室
出席者	菅沼委員長、松井副委員長、植中委員、桑原田委員、堀田委員、大島委員
説明者	建設経済部長、産業振興戦略局次長、産業立地企画室長、 産業立地企画室課長補佐
議事案件	事務事業評価について ① 市民農業塾実践編実施事業 ② 産学官連携事業

事業名	市民農業塾実践編実施事業
市事業費	849 千円
説明内容	野菜の定植から管理、収穫、直売所への出荷といった一連の販売農家としての業務を実践。事業目的は「ここぴあ」への出荷者の創出、農業後継者不足の解消、健康づくり、生きがいくりの場として実施し、就農人口の増加につなげることとする。平成 29 年度では、合計 8 回。白菜、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの栽培を行い販売会も行った。平成 29 年度の「ここぴあ」販売額は 153,373 千円とし、出荷者の「ここぴあ」の登録数 121 名、就農支援事業参加者数を 44 名とする。
主な 質疑応答	<p>問 参加者の内訳は。</p> <p>答 農業経営転換希望者 2 名、新規就農希望者 12 名の計 14（女 3、男 11）名のうち、定年帰納者が 1 名、U I J ターン移住者 1 名となります。</p> <p>問 自主的なグループ化についての詳細と農地を探している方への取組みは。</p> <p>答 8 名で市民農業塾 O B 会を結成され、チャレンジ農園事業への参加をされています。卒業された方の農地の確保についてはワンストップ窓口化を行い、農地中間管理機構にて貸し手借り手のニーズをつなげ、また補助金などの情報提供を行っています。</p> <p>問 事業費の内訳は。</p> <p>答 農業塾への参加費として 1 名当たり 8 千円を徴収しています。農産物の販売額は計 69,600 円となり参加者で均等割りしています。</p> <p>問 平成 29 年度での効果や目標に対する達成度は。</p> <p>答 「ここぴあ」への登録者数が 7 名増え 121 名に増加したこと、販売の実践で流通にも触れられたことが挙げられます。20 名の募集に対し 14 名の参加となりますので 70%の達成と捉えています。</p> <p>問 農業後継者の育成についてはどのような考え方であるのか。</p>

	<p>答 本事業への登録者は 30 代から 60 代と幅広くなっておりませんが、高齢参加者には生きがいづくりとして、若手参加者には農業経営の実践を通して将来の担い手として活躍頂きたいと考えています。</p> <p>問 花やフルーツなどの実践は農業塾で考えているのか。</p> <p>答 あくまでも園芸品目の野菜を中心に考えています。最近では梨、ブドウ、いちごなどの栽培者が増えており、今後の地元生産物の多様性に期待がもたれています。また、花の販売が大きいことも市として認識しており、市内販売業者とのタイアップも考え、儲かる農業のひとつとしての認識を広めながら今後につなげていきたいと考えています。</p>
--	---

事業名	産学官連携事業
市事業費	3,499 千円
説明内容	<p>県内立地大学の農学部や市内立地企業と連携し、新たな特産農産物に繋がる作物の研究や6次産業化を図るための加工品の開発を行い、対外的に発信力のある特産品を確保する。平成 29 年度では打ち合わせ協議を 5 回開催。龍谷大学農学部と連携し、エンサイ栽培と養蜂を選出し調査研究をお願いした。平成 29 年度の「ここぴあ」販売額 153,373 千円、出荷者の「ここぴあ」の登録者数 121 名。</p>
主な 質疑応答	<p>問 エンサイを選別した経緯、高機能野菜についての考え方は。</p> <p>答 湖南省の土壤にあった夏場での生産性の高いものを摸索し、水田を畑に変更して最適なものとしてエンサイを選別しました。高機能野菜については、市民農業塾で平行に実践していきたい。</p> <p>問 龍谷大学への委託料については把握出来ているのか。詳細を提示すべき。</p> <p>答 エンサイと養蜂の調査研究を行うための備品や経費となっています。</p> <p>問 エンサイは市民農業塾での活用を考えているのか。</p> <p>答 農業塾では市内種苗 2 業者の野菜の育成を考えています。エンサイは、35 名の方が各 20 苗を持ち帰られたので今後の作付拡大を期待しています。</p>